

●平成 9 年（1997 年）の日本の主な火山活動

噴火が確認された火山は秋田焼山、桜島、諏訪之瀬島の 3 山であった。このうち秋田焼山は 1951 年（昭和 26 年）以来 46 年ぶりの噴火であった。

そのほか、安達太良山では、昨年から火口底の泥水の噴出が継続し、新潟焼山では、年末になってから噴煙の量が多い状態が続いた。

渡島大島

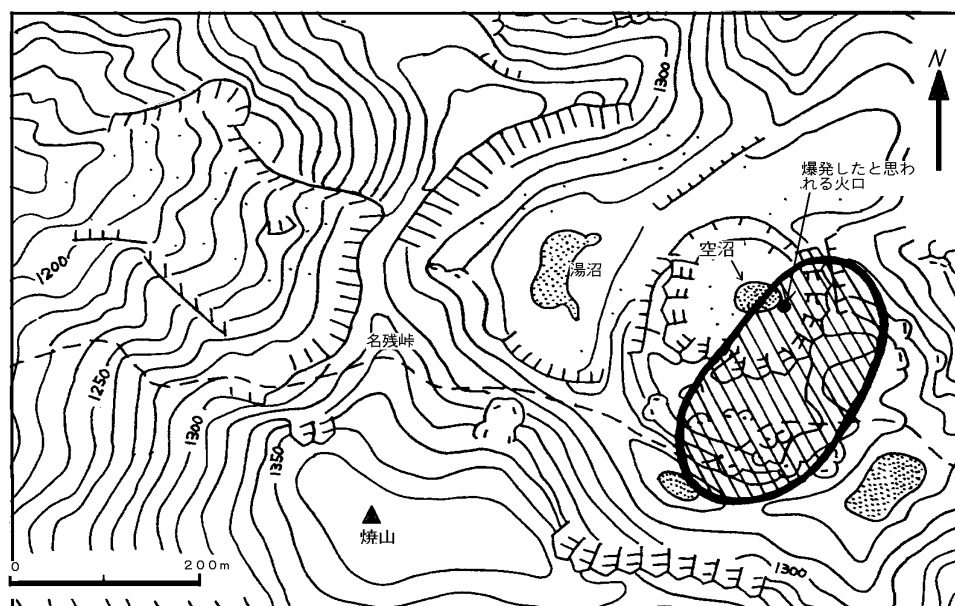
5 月 14 日に渡島大島付近を操業中の漁船が、西側山腹から立ち昇る噴煙または水蒸気を目撃したとの通報があった。このため、17 日に第一管区海上保安部の巡視船の協力を得て海上から観測を行ったが、目撃されたと思われる箇所は堆積物に覆われ、噴煙・噴気等は確認できなかった。

秋田焼山

5 月 11 日に東山麓の澄川温泉付近で地すべりが発生したが、この前後に現場付近の斜面での水蒸気爆発が防災機関等により確認された。

8 月 16 日に山頂部で噴火（水蒸気爆発）した。同日午前 11 時頃から 12 時頃にかけて、水蒸気爆発に伴うと推定される連続的な火山性微動が観測され、その後地震活動が活発化した。19 日には更に地震回数が急増し 448 回に達したが、21 日以降は減少して、ほぼ噴火前の状況に戻った。この噴火に伴い、仙台管区気象台と秋田地方気象台は 17 日と 18 日に現地観測を実施し、山頂部の空沼（からぬま）の南東部で、直径およそ 20m の火口を確認した。火口の周辺では直径約 20 cm の噴石が見られ、泥状の火山灰が空沼の南側約 300m まで飛散していた（下図参照）。この噴火による被害は報告されていない。

図 1 噴火した火口と泥状の火山灰が飛散した範囲（斜線部分）



安達太良山

沼ノ平火口では、泥水の噴出と火口南西部の地熱地帯の拡大が、昨年から継続している。

伊豆東部火山群

3 月 3 日から、伊東市の汐吹崎沖合から城ヶ崎沖合にかけてを震源とする群発地震が始まり、4 日には低周波地震が観測された。この群発地震に伴い、東伊豆の体積歪計に縮みの変化が観測され、大崎の傾斜計に南西上がりの変化が観測された。最大の地震は 4 日 12 時 51 分の M5.7 であった。26 日には活動は収まった。伊東市鎌田における日地震回数の最高は 7 日の 2,001 回、3 月の地震回数は 9,373 回に達した。

新潟焼山

10 月下旬から 12 月にかけて、噴煙量の多い状態が続いた。

九重山

星生山の北西約 3～10 kmを震源とする火山性地震がたびたび多発した。

阿蘇山

11 月 9 日と 24 日に、中岳第一火口の南側火口壁から断続的に土砂が噴出した（土砂の噴出は平成 8 年（1996 年）7 月 30 日以来）。

桜島

たびたび噴火・爆発があった。年間の噴火回数は 45 回で、そのうち 35 回は爆発的な噴火であった。

諏訪之瀬島

鹿児島県の委託観測によると 3 月 24 日と 25 日、4 月 16 日と 17 日に少量の火山灰を噴出した。

表 1. 平成 9 年の月別火山活動状況

火 山 名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
雌 阿 寒 岳					●							
十 勝 岳	●	●	●	●	●	●	●		●	●		
樽 前 山	●	●		●	●					●		●
八 甲 田 山							●					
秋 田 焼 山					●		●	▲	●	●		
岩 手 山		●	●	●			●					
吾 妻 山		●										
安 達 太 良 山					●				●	●		
草 津 白 根 山												●
浅 間 山	●		●	●	●	●		●				
新 潟 焼 山										●	●	●
富 士 山	●							●		●	●	
伊 豆 東 部 火 山 群		●	●			●						
伊 豆 大 島							●					
新 神 津 島					●					●		
福 徳 岡 ノ 場 山	●	●	●	●	●		●			●	●	●
九 重 山	●	●	●	●				●	●			
阿 蘇 山											●	
雲 仙 岳											●	
霧 島 山			●									
桜 島			▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
口 永 良 部 島	●											
諏 訪 之 瀬 島			▲	▲								

- ▲：噴火した火山
●：地震活動や噴煙の高さ等の表面現象に変化が認められた火山
火山体周辺で顕著な地震活動または表面現象等が起きた火山

表 2. 平成 9 年の火山情報の月別発表状況

火 山 名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年計
渡 島 大 島	臨時													0
	観測				2									2
十 勝 岳	臨時													0
	観測				1									1
樽 前 山	臨時													0
	観測	1												1
秋 田 焼 山	臨時							2	1					3
	観測						11	9	2					22
安 達 太 良 山	臨時													0
	観測							2						2
新 潟 焼 山	臨時										1			1
	観測											1		1
伊 豆 大 島	臨時													0
	観測						2							2
九 重 山	臨時													0
	観測	10	4	4	4	5	4	4	5	4	5	4	4	57

※緊急火山情報の発表はなかった

●平成 9 年（1997 年）の日本の火山災害

火山噴火による災害はなかった。

なお、八甲田山、安達太良山、阿蘇山で火山ガスによる死亡事故が相次ぎ、火山ガスに対する危険性が大きくクローズアップされた。7 月 12 日には八甲田山麓の田代平で、窪地内に滞留していた火山性の炭酸ガスにより、レンジャー訓練中の陸上自衛隊員 3 名が死亡した。また、9 月 15 日には安達太良山の沼ノ平で、硫化水素ガスにより登山者 4 名が死亡し、11 月 23 日には阿蘇山中岳第一火口付近で、亜硫酸ガスと見られる火山性ガスにより、観光客 2 名が死亡した。